
ふしぎちゃんにであう

四十万

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ふしぎちゃんにであう

【Nコード】

N3311U

【作者名】

四十万

【あらすじ】

ある日 電車の中 ふしぎちゃんに 出会った

ここにいる感覚がない

ん？確かそう聞こえた

自分が自分じゃなくて分離した感覚

彼女がそう続ける

そして更に

人間なのに人間の気がしない 空間が 人物が 捉えられない

なぜそう思うのだろう？

私はアーシユラを読む振りをしながら耳を澄ます

この世界が違う 何かが違う

女の子は二十歳前後

聞き手は男の子 あごひげがまばらに生えている

この子もたぶん 二十歳は過ぎていないだろう

曖昧にほほえんで あいまいに相槌を打っている

ああ、分かるよ きみ

こんな女の子が哲学を語るときは 諦めて頷くしかないのだ

あくまで君が その娘のことを気にするのなら、だがね

肉がこの世を見ている気がする

肉？ ああ、自分のことか

今、この座席に座っていてケツがイスに触れている それは分かっている

女の子がケツかい？ それにしても面白いものだ

夢か過去のような存在に思える 掴めない やっぱり分離しているんだ

赤い縁の眼鏡 たぶん例の五千円眼鏡屋

ござつぱりしたボブ 化粧は薄い

こんな話をしながら苦笑いをする

どこか他の世界を彷徨っているようにとはとても見えない
存在を意識できないのではないのか？

人が当り前にしか思えない事を わたしは分離した感覚で眺めている
特異で孤独な人間か アーシユラ先生なら拍手を贈る事だろうよ
人が人と関係したい 人が人に関心を持つことを わたしはできない
おやおや、だんだん本音が透けて来た

つまり 生きている感覚がしない でも死ぬことは怖くない
ふうん つまりきみは浮遊者なんだ 感覚のない 空間を捉ま得
ない

自分の意識と 触れられる周囲と そこにだけ まるでピンに止
められた
めずらしい蝶のように

こころのたった一秒でも 自分を自分に引き留めておきたいのに
そうか つまりきみは詩人でもあるんだ 哲学ちゃん
満たされない つまらない なにも面白いと感しない

はいはい
なにも期待できない 人に期待しない 自分も意識できない
私はアーシユラに戻って行く

この世界が違うのかも こころのたった一秒でも 自分と世界を繋
ぎとめられるのなら

こんどはレズニツクかい？ まあ、知っている筈はないが
私の意識が遠のく 文庫の文字に戻って行く
最早 世界は切り離された
似ているのだろうか？彼女と私は

電車が駅に滑り込む

乗り換え駅だ 人が動き出す

私は次まで行く すると隣の彼女が動き出す

バッグを持って

そのバッグに思わず視線が付いて行く

まあいいピンクのそのバッジ

「おなかに赤ちゃんがいいます」

はあ？ 何だって！

あんたさつき 人に関心が持てないとか言わなかったか？

生きていると かなり不可思議な人物に出会うものだ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3311u/>

ふしぎちゃんにであう

2011年10月9日10時27分発行